

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000382		
法人名	有限会社 マミーハウス幸		
事業所名	グループホーム マミーハウス幸		
所在地	北海道小樽市幸3丁目34番1号		
自己評価作成日	平成22年12月31日	評価結果市町村受理日	平成23年6月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特記事項なし

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000382&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市郊外の高台の住宅地にある1ユニットのグループホームである。建物は3階建てで、2～3階がグループホームとなっている。眺望に優れ、窓からは市街地や遠くの山を見ることができる。室内は窓が多くて日当たりが良く、家庭的な装飾がなされ親しみやすい雰囲気を作っている。階段は比較的なだらかで広く作られ、身体機能の維持に役立てられている。各居室も利用者一人ひとりが自由に好きなものを持ち込むことができる。居室は洋室や和室があったり、広さも異なるなど、画一的ではなく個性を活かすことができる。職員は利用者に優しく接しており、利用者も明るく穏やかに過ごすことができている。職員のコミュニケーションが良く取れており、定着率も高い。利用者の通院の帰りに昔住んでいた場所や懐かしい場所に立ち寄り、一人ひとりがかかりつけ医を受診できるような通院や往診の支援を行うなど、個々の希望や意向を尊重したサービスが提供されている。介護計画は定期的な見直し作成が行われており、家族や職員の意見が反映されている。
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々努めているが、理念を共有しきれていない。	事業所に以前からある理念をパンフレットに記載しているが、共有化は十分ではなく、簡潔な理念を検討中である。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り上げ、理念を共有して実践につなげるよう期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はしてない。	地域のお祭りに参加したり、運営推進会議に民生委員の方に出席してもらっているが、事業所に訪れる地域の方は少なく、交流も活発とはいえない。	ボランティアの方や児童などが事業所に訪問し交流できるような事業所からの働きかけを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所側から発信する事は行っていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催を定期的に行えていない為、定期開催したい	運営推進会議は昨年2回開催されている。地域包括支援センターの職員、民生委員などの参加を得て意見が交わされている。行事や防災などのテーマで話し合っている。	概ね2ヶ月毎の運営推進会議の開催を期待したい。また、利用者の家族にも幅広く参加を呼びかけ、参加できない方には議事録を送り意見を聞くなど、会議が活かせるような取り組みを期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問等ある場合には定期的に連絡している	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ており、市役所には各種の書類の記載方法やスプリンクラーの設置手続きなど不明な点を問い合わせしており、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行っていないが、職員の理解については今後も取り組んでいきたい	身体拘束は行われておらず、資料などにより身体拘束についての勉強会を行っている。玄関も利用者が自由に出入りすることができる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体状況については日常的に観察等行い、変化のある場合には職員に状況を聞くようにしている。		

グループホーム マミーハウス幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年1月に研修を受講した。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかりと理解してもらうため、契約書は一度持ち帰ってもらい、後日郵送してもらう等の対応をしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情等の連絡先として外部機関の連絡先を記載している。	家族に電話をした際や介護計画を説明する際に意見を聞き、運営に反映している。意見箱を設置し重要事項説明書には外部の苦情窓口も明記している。利用者の通院時に家族に同行してもらい話をする機会も持っている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在まで行った記録等はなし。	毎月ミーティング会議があり、職員は活発に意見交換し意見を運営に反映している。職員同士や職員と管理者も普段の会話の中で意見を交わしている。各種の行事でリーダーを交代で行うなど各職員が運営に参加している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日希望・出勤希望ははなるべく実現する様にしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部研修・講習に参加してもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勤務時間の都合もあり、交流会等の取り組みは実施は無い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居当初はなるべく多く会話等行い、関係づくりと、職員間での情報の共有に努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>御家族に確認しながら進めるように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族に聞きながら進めるよう努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>洗濯物たたみや、調理の一部、ペットの世話等出来る事は参加してもらうようにしている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>現在の状況等を伝え、受診・外出・外泊等をすすめている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>以前の住居付近の散歩・買い物等の支援を行っている。</p>	<p>利用者の友人や知人の電話を取り次いだり、宗教関係の知人の訪問を受けたりしている。また、利用者の通院の帰りに昔住んでいた場所や懐かしい場所に立ち寄ることもある。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事やおやつは揃って食べる事や各居室に飾る手芸品を作製する際の支援等を行っている。</p>		

グループホーム マミーハウス幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	多くが医療機関での治療・療養の為、支援等実施記録無し。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1のコミュニケーションや生活の何気ない会話を通して一人一人の希望や意向の把握に努めたり、意思疎通が難しい方は本人本意を念頭に検討している。	言葉で思いや希望を表出できない場合も仕草や様子から本人の希望を把握するよう努めている。個人別のアセスメント表に生活暦や嗜好、好きな活動などを記載し、職員間で情報を共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前情報や本人との会話、家族からの聞き取りにより把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を細かく見ながら現況を把握したり、本人や職員からも情報を得ている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時や電話等があった時に意見を求めたり、不定期な会議を通して意見を出してもらい、計画書に反映している。	介護計画は3ヶ月毎に見直し作成している。見直し時期にモニタリングを行い、職員の意見を集約してサービス担当者会議の要点に取りまとめ、次の介護計画に反映している。計画は家族に説明され、署名捺印を受けている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やサービス内容の実施は個人記録や支援経過表に記入し、必要な情報は連絡帳に記入し、情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の買い物や郵便物その他の書類提出に柔軟に対応したり、物品の貸し出しや提供などその時々ニーズに合わせた対応をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の住民や民生員地域包括支援センターの方々に協力を求め一人一人の暮らしをサポートしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力体制がある病院や各利用者のかかりつけ医や主治医と連携している。臨時の受診や往診にも対応している。	利用者一人ひとりがかかりつけ医を受診できるよう支援している。通院は家族の対応が難しい場合は事業所で支援し、利用者によっては往診も受けている。ケア日誌に受診内容を記録し、必要に応じて家族に報告している。	

グループホーム マミーハウス幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置は無し。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各入居者の主治医には受診・往診の際に日々の生活状況等を伝え、入院時には速やかに情報提供等行う様に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いの出来ていない御家族も多く、今後更に説明をして行きたい。	重度化や終末期について、早い段階から家族とまだ十分な話し合いはできていない。	重度化した場合や終末期の事業所の対応方針について、利用開始時などできるだけ早い段階で家族に伝えることを期待したい。方針はできれば文書化し、家族と共有することが望ましい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	想定した訓練等は行っていない		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や、初期消火、避難場所の確認等を行っているが、地域の協力は得られておらず、今後の課題である。	現在は年2回、昼間を想定した避難訓練を消防署の協力のもと実施している。職員の救急救命訓練は行われていない。地域の方にも災害時の協力を呼びかけている。	夜間想定した避難訓練の実施と、各職員の定期的な救急救命訓練の受講を期待したい。地域の方には災害時に避難者の見守りをお願いするなど、具体的な内容を伝えながら依頼されることが望ましい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今後も気をつけて対応して行きたい。	職員の言葉かけで気になることがあれば、その都度管理者や計画作成担当者が注意を促している。個人情報カーテンなどで目隠しして保管し、面会簿は単票形式にしてプライバシーに配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人と相談しながら決めるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴日等事業所側の都合を優先する場合も多く、希望に沿った支援を提供出来ていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服装をしてもらったり、訪問理美容院を利用し、カットや毛染めを行っている。		

グループホーム マミーハウス幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや調理の一部参加等を行っている。	献立は職員が交代で作成しているが、利用者の希望などに応じて柔軟に変更し、実際に食べた献立も記録している。2週間毎に出前を楽しんだり、おやつに利用者の希望を取り入れている。利用者に応じて下拵えや下膳などを一緒に行い、職員も共に食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の把握を毎日行い、主治医に相談し食事の増減を行っている。又、場合により栄養補助のドリンクやゼリーなどで支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科の往診の際必要に応じて口腔ケアをしている。又歯科衛生士の定期訪問を行い、口腔状態を管理してもらっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとにトイレ誘導し、なるべくトイレ排尿する様支援している。	失敗した時の精神面に配慮して、現在は殆どの利用者がパットやりハビリパンツを使用している。個人サービス記録でパターンを把握して声かけを行い、トイレでの排泄を支援している。誘導時の声かけは、本人が嫌がるような言葉遣いをしないように配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や下剤の調整・おなかマッサージ等で便秘の解消を支援している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務時間の都合もあり、希望する時間での入浴は行っていない。	入浴は、火・金の午前中に全員行っている。入浴剤を使用する時は、入浴順にも配慮している。体調変化などで入浴日に入浴できない時や汚れがひどい時などは、シャワー浴や清拭で対応している。利用者は火・金を入浴日として意識しているため、入浴拒否をする人は殆どいない。	利用者の生活習慣や希望に応じて、入浴日や時間帯などに柔軟性を持たせるような配慮を期待したい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の言動等状況に応じて対応している。場合により、主治医と相談し薬剤の服薬支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更時は特に副作用に注意している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花植え・喫煙・買い物等で支援を行っている。		

グループホーム マミーハウス幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>職員の都合もあり、希望に添えない場合も多い</p>	<p>雪のない季節は近隣を散歩して草花を摘んだり、買い物などに出かけている。利用者の歩行状態が悪くなり、外出することも難しくなっているが、通院などで定期的に出かけている。季節に応じて畑仕事や近くの公園へのお花見、地域のお祭りなどにも外出している。野外でのバーベキューなども楽しんでいる。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人と相談しながら手持ち金を決め、ほしい物を購入したりしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族からの電話の際はなるべくご本人にも代わるようにしている。又、ご家族に手紙を書いてくれるよう支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>転倒や誤嚥に繋がるようなものは置かないようにしている。又四季の花々等を飾ったり、利用者の作った手芸品等を飾る様にしている。</p>	<p>玄関や居間、浴室などの共用空間は広々としており、日当たりも良く、壁に飾られている絵画や家具類、神棚など家庭的で馴染みやすい空間になっている。お雛様を飾って季節感を取り入れたり、日めくりやカレンダーを随所に掲示して時の見当識にも配慮がなされている。建物の構造に合わせて、利用者が使いやすいようにトイレの配置にも工夫がなされている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳部分で新聞を読んだり、少し横になったり、多目的に利用している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具類や寝具・普段着等各人居者の好みのものを使用している。</p>	<p>居室により押し入れや棚など備え付けられている物は違うが、利用者はそれぞれの部屋に合わせて筆筒や衣装ケース、仏壇など好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫がなされている。好きな動物の写真やタレントのポスターなどを貼り、自分らしい個性的な居室になっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各階段には手すりを設置し、導線には危険物は置かないように心がけている。</p>		

目標達成計画

事業所名 マミーハウス 幸

作成日：平成 23年 6月 2日

市町村受理日：平成 23年 6月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	本年度は避難訓練を実施していない。又、救急救命訓練の受講をしたことがない。	6月中の避難訓練(夜間想定)を実施する。救急救命訓練の受講を本年度中に実施する。	6月16日に夜間想定での避難訓練を予定している。	2ヶ月
2	4	運営推進会議の定期開催が去年は2回の開催だったので2ヶ月に1度の開催を目指す	利用者の家族の参加が乏しい為、議事録を郵送し、意見等を求めて生きたい。	6月24日に開催予定。(議題上記避難訓練の結果と改善点について)	1年
3	33	重症化や終末期に向けた方針は一部の利用者・ご家族との間で話し合いで大まかに共有している程度で文書化していない。	家族や主治医に相談し、文書化する	事業所としてのサービスの限界値を示した文書の作成 ご家族の希望の聞き取りと了解を得る。	6ヶ月
4	2	事業所と地域の付き合いは日常的に行なっていない。	地域のお祭りの参加、歌のボランティアの訪問での交流	以前に訪問していただいたボランティアの方々への連絡、行事への参加呼びかけを行なう。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。